

## 第12回 川越市総合計画審議会

**1 開催日時** 平成27年10月28日(水) 午後6時53分～午後8時30分

**2 開催場所** ウェスタ川越 活動室1, 2

### 3 出席者

溝尾良隆、河野哲夫、大泉一夫、川口知子、小野澤康弘、川口啓介、高橋剛、山木綾子、関口一郎、真下英二、岡田弘、柿沼昭弘、櫻井晶夫、杉山榮子、関口俊一、長坂江、原伸次、山岡俊彦、平嶋こずえ、町田一枝の各委員

### 4 会議の概要

#### 1 開会

#### 2 会長挨拶

川越まつりは好天の中、クレアモールでは身動きが出来ないほどの大変な人出だった。川越はこの季節は市民マラソンなどいろいろなイベントがあり皆さんお忙しいことと思う。総合計画審議会もなんとか今日でまとめ、11月2日の市長への答申へと持っていきたいので皆さんの御協力をお願いしたい。

#### 3 議事

##### (1) 答申案調整について

◎事務局から、資料12-1、資料12-2に基づき、第11回審議会意見の反映内容について説明。

##### 【意見の概要及び質疑応答】

○資料12-2、番号333の項目で、反映内容の修正前がひらがなで「さらに」、修正後が漢字で「更に」となっている。どちらかといえばひらがなの方が良いと思う。ひらがなと漢字でどちらかに統一されていればよいと思うが確認したい。

○「さらに」だけでなく、他の言葉についても総合計画の中での統一された表記は必要。印刷の前にしっかり確認して欲しい。形容詞や副詞は、使わない方がいいが、使う場合には強い言葉にしないで、漢字を使わないというのが最近の傾向。「うつくしい川越」といっても「うつくしい」が何かは分からない。形容詞を使わないようにしているが、使うとしたらひらがなにするというのが最近の傾向。ひらがなの方がやわらかくてよいと思う。そうでないと、一番言いたいところの漢字が生きてこない。

◎事務局から、資料12-3に基づき、意見公募手続の結果について報告。

##### 【意見の概要及び質疑応答】

○意見公募手続ででてきた意見は、ほぼ原案に含まれていたということか。

・原案の中で対応できるものと考えている。

○意見を提出してくださった14名の方には、どのような形でフィードバックを行うのか。

- ・市のホームページで公表する。
  - 子ども・子育てについてが一番件数が多く、教育や都市基盤・生活基盤等に意見が集中したようだ。ホームページにはいつ頃載るのか。
  - ・第四次川越市総合計画基本構想を議案として提出した日以降に公開させていただくことになる。
  - 総合計画の基本構想は、法律では議決事項ではないと認識しているが、12月にあえて議会に議決を求める意図はあるのか。
  - ・地方自治法上での議会の議決という部分はなくなったが、平成26年度に策定した川越市総合計画策定条例のなかで、基本構想については議会の議決をいただくと定められている。
  - 上程するのは基本構想のみで、前期基本計画は上程しないということか。
  - ・上程するのは基本構想のみで、基本計画の部分は参考資料として御提示する。
  - パブリックコメントが審議会の最終回に提示されたが、市民の意見を反映できるような段階での実施が筋ではないか。子育ての分野での要望が多く、子育てをしやすい川越、ということで市民の望んでいる方向がパブリックコメントに表れていると意見を受け止めた。今後の施策の展開の中で一步でも進めていただきたい。
  - パブリックコメントは出来上がってから聞くということが多いが、今の御意見だと一年前の市民の意見を聞く取組のようなことではないか。
  - 文章の体裁について、少し言葉足らずな部分がある。再検討されたい。
  - 17番目の意見である、ゲームのまちを目指すことは、文化芸術についての施策である「No.14文化芸術活動の充実」ではなく、「No.11生涯学習の推進」の方がふさわしいのではないか。
  - ・再度、精査させていただく。
  - パブリックコメントに関する回答の公表はホームページ上だけでいいか。意見の提出方法は直接持参や、郵送、ファックスもあり、原案の閲覧方法についても市民センターなどがある。回答についてもホームページ以外で、市民センターでも閲覧できる方がよいのではないか。
  - ・政策企画課の窓口でも回答について御覧いただけるようにする。
- ◎事務局から、資料12-1に基づき、計画策定の趣旨について報告。

### 【意見の概要及び質疑応答】

- 審議会が始まった際にも発言したが、今の時点での計画を作る意味を明確にすべきである。社会状況をどう把握するか。少子化はひとつの重要な要素だが、高齢化がこれまでよりも明確になり、今後ますます進む。各施策の中には入っていると思うが、そのような社会になるという認識が入っていないと、この時期に計画を作った意味が薄くなるので、入れていただきたい。策定の趣旨の中にも、答申の意見の中にも、表現としてそういった観点が入っていないが、せっかく議論をしてきたので、ぜひ入れていただきたい。社会をこう見ている、10年間でこうなると思う、従って高齢化の問題は、市の財政問題としても重要なので、市が関わってできるだけ健康寿命を延ばしていき、財政的にも負担を軽くしていくという視点が大事だと思う。
- それに加えて、行政依存ではなく、コミュニティや地域社会が充実した形になってい

くことも必要。文章の中で、少子化や高齢化が筋として一本すつと通っていただいが、横にいろいろと入っている。少子化や高齢化は必ず迎える。そういった中で現在の人口をどう維持するかとか、財政が悪化するのをどう防ぐか、そのためにこういうことをする、という流れになっていただいいのかもしれない。

○健康であるということは個人の意識の問題、いきがいの問題だと思う。ただ個人の問題とも言い切れない部分がある。最近の科学や医療の進展により、予防や日常生活を変えることによって、健康を維持できるということがあるので、市が関与できる分野が多くあると思う。この問題に市が無関心でいるならば、市はいらない。

・この会議から持ち帰り、2段落目をふくらませるようなことを検討し、後程御報告したい。

○人口35万人に達したことについて、喜ばしいと、また、人口の増加は地域経済の活性化や税収の増加に寄与すると書かれているが、人口というのはこういうことだけか。行政マンとしては外れではないかもしれないが、あまりにも現実的すぎる表現だと感じる。都心から、歴史があり落ち着いたまちに住みたい、川越で子どもを産み育てたいと川越を評価して移り住んできた方がいるかもしれない。人口増加についてもう少し多面的な評価をする必要がある。

○文章の流れをつくったほうがいい。「人口が35万人に達し、喜ばしいことです。」という部分は、「喜ばしい」と書かないで、「35万人に達しました、しかし、今後この状況を維持するのは難しい状況を迎えるので、今後もしっかり取り組んでいく」という流れにすると力強くなるかもしれない。

○目指すのは「だれもが住み続けたいまち」でこれが目標である。人口が35万人に達したということは、現時点では色々な人が川越に住んでみたいと思ってくれているということの表れである。35万人に達したということは、川越が評価を受けているということなので、その点については大変喜ばしいことだと思う。その一方、今後人口が減ることは確実である。であるならば、住み続けたいまちを目指すために第四次川越市総合計画において、このような基本目標を定めているのである、という流れになるべきであると思う。経済の活性化も税収の増加もいいことだが、それぞれサステナビリティ、持続可能性の条件であり、結果に近い。どちらかという総合計画で目指さなくてはいけないのは、だれもが住み続けたいまちになることなので、人口が増えたこと、それは現在評価されていることだから喜ばしい。だけれども今後試しに住んでくれた人がいつまでも住み続けたいと思うまちを目指して第四次総合計画がある、というのがストーリーとしてはすっきりするのではないか。

○ここにある住み続けたいまちというのはどういうまちなのか、そういうまちを私たちは作り上げていこう、という強い決意表明があればいい。

○最初の2段落については、「人口が35万人に達しましたが、」とつなげ、一緒にしてもよいのではないか。高齢化に関することは3段落目から5段落目までの間に適当な表現で追記すべきではないか。高齢者に関することがないというのは、だれもが住み続けたいを目指すという点でいうと片手落ちだと感じる。

○3段落目は言いたいことがいっぱいありすぎて、読んでいて入ってこない。いろいろなことを盛り込まなくてはならないということは分かるが、一度読んだだけですつと入

ってくるような文章構成を考えた方がよい。全体をまとめたなかで第四次総合計画はこうだという核が欲しい。この段落をもう少しまとめた方がよいのではないか。

- 少子高齢化の対応への問題と産業で経済を活性化させる話、また、文化芸術ということがあるので、これを二つに分けるとすっきりするかもしれない。この件については、後程事務局と考えるが、審議会の答申の内容に関係してくるので、そちらをはっきりさせることにより、策定の趣旨が生きてくるということもあるので答申についての議論に移りたい。ここで、市長宛ての思い入れをしっかりと書きたい。

◎事務局から、資料12-4に基づき、答申について説明。

【意見の概要及び質疑応答】

- 会長から事務局の説明について補足。

1については、総合計画をしっかりとしていかなないと持続可能な社会を維持、構築できないということ、皆さんから指摘のあった少子化、高齢化を2,3においた。また、ブランド力という言葉を加えた。川越は、今ある程度のブランド力を持っているから憧れを持たれている。川越は、いいまちだということを外の人にも、中に住んでいる人にも伝えたい。8はこれから行政だけではできることは限られるので地域コミュニティ、住民参加などの取組をやっていきたいと思いますという流れを作った。6で農業、商業、工業は大事だというのが、本当は今、産業は非常に厳しい状況にある。ここで、流出しないようにするとともに新規に進出したくなるような受け入れをしなくてはいけないのではということ、農業については東京圏であるということがあるが、いずれにせよ農業、商業、工業については別の角度から支援をしていかななくては厳しい。観光を切り離したのは、オリンピックもあるが、川越の観光客は大変な数で、消費を市内の循環に持っていきたいと考えた。

- 10年毎に作る計画で、今作る計画は前の計画と何が違うかということ非常に気にしている。時代や社会が変わり、前には重要でも、ある程度行政の効果が上がり、解決したものは抜けたかもしれない。けれど、新しくこういう問題がある、ということがないと、前と同じになってしまう。事務局はどういうところに問題意識を持っているのかということをお聞きしたい。

- ・子ども・子育てを章立てし、次代を担う子どもたちに関する施策を重点に置いた。住民自治の推進、地域コミュニティの必要性についても重視している。人口減少という視点からも、住み続けたいまちということで施策の中にいろいろと盛り込んだ。

- 市長が10年後の川越をこういうまちにしたい、そのためにはこのようなことをやっていきたいと思っていることを議員、職員、市民のみんなが分かりやすく大事に思うことが大切だと思う。市がこういう方向に行っているということが皆にとって分かりやすくなっていることが大切だと思う。

- 高齢化の問題が抜けているという指摘があったように、団塊の世代が75歳を迎える2025年問題は確実にあるので、高齢化に対する施策は中にうたってあるので答申にも入れるべき。新しく子育てをやっていくのも大切だが、高齢化も確実にやってきて市の財政を圧迫することは明らかなのできっちり答申の中に入れて方がよい。

- 地域福祉という言葉を入るべきと思う。4に文化芸術活動と書いてあるが、高齢

化のなかで生涯学習的なこともこれから要求されてくるので、その辺りも盛り込んで欲しい。

- 3に高齢化という文言をここで大きく取り上げてほしい。計画が第四次だからと大きく変わると市民は戸惑う部分もある。第四次では人口減少をターニングポイントとして大きく取り上げればよいと思う。財政の上では税収よりも支出が増え、マイナスの財政基盤に陥るのが第四次であると思う。その辺りはこれまでの12回の審議を踏まえ各委員も認識してこの文章を読んでいかななくてはいけないと思う。個別の事案をやみくもに載せたら文面的にもかなりスペースを取るし、逆に分かりづらくなってしまう。
- 最終的には市民が見て、市はこういう方向に進むとすぐわかる必要がある。
- 3に高齢者の施策を障害者の施策と並べていれてほしい。文中に「安心して暮らせる」とあるが、高齢者にも障害者にも通じる言葉として「いきいきと」を入れた方がよい。高齢者施策の中に生きがいつくりの充実というのもあるのでそのような表現を入れたい。

また、計画の策定の趣旨に「公共施設などを適正に配置しつつ、」という一文があるが唐突に感じる。

- これは中心核や地域核のことか。
  - ・人口減少社会のなかで、国では立地適正化計画を進めているが、そのような視点の一つとして公共施設の適正な配置という考え方があるのでその辺りを含めて表した。
- コンパクトシティという考え方があるが、川越の場合は広く広がっているので、地域核をつくり、やっていくということのなかで公共施設の問題や公共交通が入ってくると考えてよいか。そういう背景があって入れたのか。
  - ・そのような背景を踏まえ、このような表現になっている。
- この部分だけがとても具体的なので、検討いただきたい。
- 環境に関する記述が弱いと感じる。7に環境という言葉が公園の次に出てくる。これまでの議論の中で、基本目標の中では環境がある。自然環境を守っていくというのは未来への投資ともいえる。持続可能なまちづくりはこれからのまちづくりに欠かせない視点であり、教育という面からもこれからの子どもたちに大切な自然を残していくという考え方のもとに議論が進められてきたことを考えると、公園の次に二文字だけで表されるのは少し弱いと思うので御検討いただきたい。
- 3に関することで、バスを使う際に視聴覚障害者の方がバス乗り場が分からず困っていても周囲の人はあまり助けることがないという現状があるので乗り場の案内が欲しい。だれもが住み続けたいまちということであれば、どういうまちになったらいいのか。障害者の方には住みにくい。細かいことに気を使う川越市民でありたいと思っている。7に交通施策の充実とあるが、シャトルバスがなくなり、デマンド交通がまだ走っておらず、交通が不便な場所に住んでいる。これからの高齢化社会で、歳を取り、誰かに車に乗せてもらえなかったら医者にも行けない。川越市の隅々にまで目を向けてもらいたい。
- 第四次川越市総合計画が出来上がった後に、この冊子はどこに配布されるのか。市民はどのように閲覧できるのか。これを見て具体的に活用することはあるのか。
  - ・完成後は、図書館等で閲覧いただけるほか、販売予定となっている。また、概要版は

無料で配布予定となっている。計画は有効に活用し、職員が十分に内容を理解しそれぞれの施策に生かすように対応していく。

- 計画策定の趣旨に関し、高齢化の部分が抜けているという指摘があったが、基本目標があり、その中にそれぞれの分野に関しての表現がある。これらを活用して表現できないか。5段落目の子育てや教育に関する施策の後ろに「高齢化」という言葉を入れてはどうか。こちらのページにもきちんと配慮していただきたい。
- 答申は会長の名前で出すが、会長としてはどのような御意見をお持ちか。
- 「だれもが住み続けたいまち」を前面に出したので、「だれもが」は誰なのか、「住み続けたいまち」というのはどのようなまちか、ということを具体的に列挙してそこからスタートすべきだった。取組施策に部署名が入るが、本来は後でいい。各部でこういう問題があるということ挙げて積み上げていくボトムアップ型はやめ、「こういうまちをつくろう」、そのためにはどうしていったらいいか、更にそれを具体化するにはどうするかというトップダウン型の方がいいと初めのころに言ったが、委員の皆さんからそのような案が上がらなかった。本当は1回から3回くらいまでで、全体を決め、それから個別に入りたかった。これまで日本はスプロールのまちをつくってきたが、急にアメリカやヨーロッパにならい「コンパクトシティ」という言葉が出てきた。こうなった以上は川越の現状を見つめ、南古谷、霞ヶ関、高階、南大塚に川越駅西口も加えてしっかりとした地域核を作り、中心核の部分とネットワークを組む。そこに入らない地区、例えば山田地区は北部地区と結びつくのか、名細と結びつくのかという問題はあるが、ゾーニングをしっかりとすることが必要。高階地区の人が川越市は中心部ばかりで他のところは何もしてくれないと言っていたことがあったが、高階を一つの市ととらえ、どういうまちにしたいのか自分たちで考えることが必要だと話したことがある。中心核と地域核、地域核をどこに作るか、公共交通をどうするか、そこに住んでいる若い人やお年寄り、新住民をどうするかといったことが関係してくるが、個人的にはそのような川越をつくりたいと考えている。

- ・資料12-1については、事務局と会長、副会長で手直しする。
- ・資料12-4についても、本日の意見を踏まえ手直しする。

## (2) その他

- ・答申は資料12-1に手直した資料12-4を添える形で行う。
- ・資料12-1のうち、9ページから24ページの基本構想を議案として12月議会に提出する。その際、基本計画も参考資料として提出する。
- ・12月議会にて、議決後、今年度末に製本予定。基本計画の後ろに策定の経緯、審議会委員名簿、答申の文書を掲載することを予定している。
- ・次回は11月2日、16時30分から 会場：市役所4階 迎賓室

## 4 副会長挨拶

## 5 閉会